

議 員 派 遣 に つ い て

県 政 調 査（その1）

1 目 的

タイでは、産業集積や政府の税制優遇により効率的な供給網が構築されており、さらにインドシナ半島の中心に位置し、ASEAN各国の物流の結節点となっているという地理的優位性から、日系企業の事業展開が進んでいる。

また、高齢化の進展により、医療・介護を始めとする高齢者関連市場の拡大が注目されている。

そういう状況を踏まえ、ライフサイエンス・ヘルスケア産業において、日本・タイ両政府機関や経済団体と連携して、日系企業のタイ進出を支援している「K A I G O L i f e」を聴取し、県内中小企業のビジネス展開支援の参考とする。

同じく「ジェトロ・バンコク事務所」においても官民協力機関等と連携した支援プラットフォームを整備・構築していることから、このような取組を聴取し、今後の施策の参考とする。

「チュラロンコン大学交通研究所（C U T I）」は、高齢化・都市混雑・運転手不足等を背景とした新たなモビリティ政策の研究・制度設計支援を行っていることから、この取組を聴取し、新たなモビリティ供給のあり方の検証の参考とする。

「日本発条株式会社」は、国際的な部品サプライヤーとして、情報通信分野や産業生活分野など様々な業界を支えている。その取組を聴取し、日系企業にとってのタイ進出メリットに関する理解を深める。

そのほか、タイ国内での技能実習生の募集、選抜、日本語教育などを行っている団体の取組について聴取し、外国人材の雇用支援についての参考とする。

2 派遣場所

タイ王国

3 期 間

令和8年3月28日から令和8年3月31日まで

4 派遣議員

田中 徳一郎、土井 りゅうすけ、加藤 元弥、綱嶋 洋一、山本 哲、市川 和広、芥川 薫、おざわ 良央、田中 信次、武田 翔

県政調査（その2）

- 1 目的 韓国・文在寅政権退陣以降、冷え込んでいた日韓関係は改善の兆しを見せ、自治体間交流も再び活性化する傾向にある。
現政権も日本との関係について、引き続き重視していることから、自治体レベルにおいても、今後更なる交流の進展が期待されている。
- そのような状況を踏まえ、今回韓国を訪問し、最近の韓国と日本及び自治体との経済・行政等における交流の状況を関係機関から聴取するとともに、本県と友好交流関係のある京畿道庁を訪問し、近年の本県との交流の状況、今後の交流の在り方等について意見交換を実施し、今後の議会活動の参考とする。
- また、セウォル号沈没事故による教訓を踏まえてオープンした体験型防災教育施設を訪問し、海難事故防止に向けた先進的な取組について調査する。
- 2 派遣場所 大韓民国
- 3 期間 令和8年3月26日から令和8年3月28日まで
- 4 派遣議員 栄居 学、市川 よし子、赤野 たかし、
市川 さとし、須田 こうへい、相原 しほ、
平野 みぎわ

県政調査（その3）

- 1 目的 ひきこもり当事者や不登校の子ども、その親のための居場所としての民営施設、解体予定だったアパートを改修して地域住民と産官学連携により団地を再生させる取組、県立高校存続のために町が教育寮を整備して遠方からの生徒を受け入れる取組、多様な関係者と連携して観光地域づくりを行なうDMOの取組を調査することにより、本県における今後の施策調査の参考とする。
- 2 派遣場所 福岡県、愛媛県
- 3 期間 令和8年3月26日から令和8年3月28日まで
- 4 派遣議員 京島 けいこ、近藤 大輔、作山 ゆうすけ、
岸部 都、石川 裕憲、脇 礼子、
佐藤 けいすけ、永井 真人、小田 貴久、
吉川 さとし

県政調査（その4）

- 1 目的 甚大な豪雨災害が市民生活に与えた影響や復旧の取組、民間主導型エリアイノベーションの取組、地域の食文化を生かす「ガストロノミー」の取組、認知症の方の尊厳を重視するケア手法として注目されているユマニチュードの取組について調査し、本県における防災・減災施策、まちづくり施策、観光振興施策、認知症施策の参考とする。
- 2 派遣場所 熊本県、鹿児島県、福岡県
- 3 期間 令和8年2月2日から令和8年2月4日まで
- 4 派遣議員 小野寺 慎一郎、藤井 深介、亀井 たかつぐ

県政調査（その5）

- 1 目的 宇宙関連産業の振興に積極的に取り組まれている鹿児島県を訪問し、宇宙関連事業や宇宙産業の可能性、宇宙分野における最先端の取組などを調査し、本県における宇宙関連施策の参考とする。
また、バイオマス発電の取組やエネルギーの課題について調査し、本県における脱炭素施策及び循環型社会施策の参考とする。
- 2 派遣場所 鹿児島県
- 3 期間 令和8年3月26日から令和8年3月28日まで
- 4 派遣議員 西村 くにこ、鈴木 ひでし、佐々木 正行、
谷口 かづみ、おだ 幸子

県政調査（その6）

- 1 目的 先住民族の文化伝承共有の場を運営する「ウポポイ 民族共生象徴空間」、不登校生徒へのきめ細やかな指導を行う「星槎国際高等学校本部校・もみじ中学校」、カスタマーハラスマントについて様々な取組を行う「北海道庁」、多文化共生の取組を行う「JICA札幌」を調査することにより、本県における今後の施策の参考にする。
- 2 派遣場所 北海道
- 3 期間 令和8年3月29日から令和8年3月31日まで
- 4 派遣議員 さとう 知一、日浦 和明、片桐 紀子、
松川 正二郎、阿部 将太郎

県政調査（その7）

- 1 目的 藤田医科大学病院における感染症対応や院内ロボット等の先端技術の活用の取組、京都大学における金属有機構造体の研究等を調査することにより、本県の今後の施策調査の参考とする。
- 2 派遣場所 愛知県、京都府
- 3 期間 令和8年3月30日
- 4 派遣議員 小川 久仁子、松長 泰幸、すとう 天信、
青木 マキ